

IMJ NEWS LETTER

発行: 一般社団法人 日本統合医療学会 本部 〒113-0023 東京都文京区向丘1-6-2 Email : info@imj.or.jp FAX : 03-3812-5167

渥美名誉理事長が「民主党統合医療議連」で講演

去る、平成24年4月24日（火）、衆議院第2議員会館内の会議室で開催された「民主党統合医療議連」の会議で渥美名誉理事長が統合医療に関する講演を行いました。

冒頭、大島九州男参議院議員の司会で開会した後、鳩山由紀夫会長から、「ここに来て、我が国の「統合医療」を取り巻く環境も一層の進展を見せており、我々も普及・発展に更なる努力を傾注しなければならない」との趣旨の挨拶がありました。



次いで、渥美名誉理事長が講演を行い、講演終了後に質疑応答を行いました。

やはり、質問は東日本大震災の『その後』に関わる内容のものも多く、それらには、同席していた仁田新一理事長（東北大学名誉教授、医学博士）がお答え致しました。

併せて、「予てより、統合医療センター（※仮称）を被災地に建設し、『被災者・復興者』支援の一助と位置付けると共に、我が国に於ける『統合医療』普及・発展の拠点の一つとすべく

準備を進めており、地元自治体も積極的に計画に関わってきている」との説明を仁田理事長が行いました。

渥美名誉理事長の「統合医療は革命であり、今は医療が『治療中心』から『予防中心』へと移行する一大転換期である」との発言には多くの参加者が大きく頷かれると共に「統合医療」の意義を再認識されたように見受けられました。ご高承の通り、我が国は超高齢化社会を迎え、全人口に占める高齢者の割合が増えるに連れて老人医療費は上昇を続けています。最早、「対症療法中心」の医療制度を堅持し続ける事が困難な状況であるのは「自明の理」と言えます。

今こそ、「受益者」「エンドユーザー」と言うより、寧ろ『主人公』である筈の国民自身が「持続可能な医療・医療制度のあり方」についての議論を真摯に且つ、能動的に行い、自らが積極的に健康であろうと努力する「予防医療」「セルフ・メディケーション」に取り組まなければならないと感じた有意義な会議でした。



【文責：(社)日本統合医療学会事務局 (y)】